

点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

■75■

「まずは挑戦してみろ」。これは、よくビジネスで言われることだ。これを実感したのは、県内にある物流会社にお邪魔したからだ。

この会社は、まず「I点呼システム」を開発した。運転手が運転する前に点呼する必要があるので、I点呼システムを開発するまでは、対面でないと呼呼を行えなかったし、点呼記録を作成するのに時間もかかっていたらしい。

これをパソコンにカメラ、静脈認証装置、アルコール検知器、体温計、血圧測定器を接続することによって、遠隔地でも点呼

ビジネスの極意

リスク取り挑戦を

を行えるようにしたほか、点呼記録を自動作成できるようにしたとのこと。また、社内

保健師が蓄積した体温や血圧のデータを運転手の健康管理にも

活用できるようになった。

このシステムは、機器を製造する企業の協力によりコストをある程度抑えることができ、国も「過労運転防止のための機器」として助成金の対象にしたのだ。この後、かなり普及しているとのこと。

さらに素晴らしいの

は、このI点呼システムの活用方法。運転手と点呼をする人が双方でコミュニケーションを取るということだ。そうすることによって、遠隔地でのコミュニケーションの弱点をカバーできるのとことだった。

こうした「非接触」「検温機能」が今、物流業界の新型コロナウ

イルス対策として注目を集めている。

加えて、この会社は①少子高齢化から物流業界を担う人材が減ってきたこと②働き方改革の流れから時間外勤

を抑制する必要がある。できたことを受け、「自動荷役システム」を導入した。

この自動荷役システムも見学させてもらった。トラックからの積み下ろしは人の手でやらざるを得ないが、荷物が倉庫前に搬入されると、無人フォークリフトが搬入された荷物を自動的に収納すべき

棚に運んでくれるのだ。しかも、収納棚も自動で最も効率良く動くようになっていて、そうすることによって人の手をかけずに作業が可能になるほか、無

挑戦してみるところだ。しかも、収納棚も自動で最も効率良く動くようになっていて、そうすることによって人の手をかけずに作業が可能になるほか、無

の勝算は必要だが、リスクがあってもまずは

の勝算は必要だが、リスクがあってもまずは

挑戦してみるところだ。しかも、収納棚も自動で最も効率良く動くようになっていて、そうすることによって人の手をかけずに作業が可能になるほか、無

の勝算は必要だが、リスクがあってもまずは

岡山和裕（おかやま・かずひろ）

1969年

7月生まれ。兵庫県出身。東京大学法学部卒。92年日本銀行に入り、業務局統括課長、決済機構局業務継続企画課長、情報サービス局総務課長などを経て、2018年4月から現職。

